

伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る生徒を育む英語科の授業 —得られた情報や自分の思いを整理し、伝えたい内容を表現することを通して—

I 主題設定の理由

グローバル化が進み、国内外で英語でコミュニケーションを必要とする機会が多くなった。簡単な情報や考えなどを理解し、伝えたい内容について、即興で伝え合い、意見や感想を述べたり、質疑応答したりする力が今まで以上に求められている。これからの中学校の英語教育では、将来の予測が難しい時代を生徒たちが生き抜くために、これらの力を身に付けさせる具体的な言語活動を設定して授業改善を行い、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することが必要であると言える。それらの活動の中では、話しながら話の流れを考えたり、聞きながら相手の話を予想して答えの準備をしたりするなどのコミュニケーションが求められる。

2021年度に完全実施される学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生涯にわたり、自ら課題を見つけて解決する力の育成が求められている。また、目標についてはCEFR^{注1)}が言語を用いる行為をreception (受信), interaction (やり取り), production (発信)に分けているのにならって、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に加えて「話すこと」を「やり取り」と「発表」に分けて5つの領域が設定された。「やり取り」が設定されたことは、準備に時間をかけることなく、伝え合うという双方向のコミュニケーションを図る資質・能力の育成が重視されていると言える。さらに、目標と内容において、「思考力・判断力・表現力等」に関する記載がなされたことから、今後、コミュニケーションに関わる思考力等を高めていく必要があると言える。

前研究シリーズでは、「気付きを促し、コミュニケーション能力^{注2)}を育む英語科の授業—批判的思考を用いるための構成要素に着目して—」という研究主題を設定し、研究に取り組んだ。コミュニケーション能力を育む手立ての一つとして、批判的思考を用いる場面を設定し、相手に伝わりやすくするために、内容について思考させることで、気付きを促し、生徒たちは気付いたことを基に自分の原稿や発話にいかすことができた。これらの取組は、生徒たちのコミュニケーション能力を育むことに有効であった。

しかし、自分が伝えたい内容を考える過程で課題が残った。自分が伝えたい内容を考える際に、伝えたい内容を広げるための情報が十分ではなく、僅かしか伝えたい内容を考え出すことができずに、英語でうまく伝えることができない生徒が見られた。また、そのような際に、自分では気付かなかった他の情報の存在に気付かせて、その情報を整理させることが必要であった。

そこで、英語科においては、研究主題を「伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る生徒を育む英語科の授業—得られた情報や自分の思いを整理し、伝えたい内容を表現することを通して—」と設定し、研究に取り組むこととした。

II 研究の概要

1 英語科で目指す生徒像

本校英語科では、目指す生徒像を以下のように設定し、研究に取り組むこととした。

伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る生徒

2 育みたい資質・能力

私たちは、英語科で目指す生徒像に近づけるために、次の資質・能力を育みたいと考えている。

- 文法能力や談話能力などのコミュニケーション能力を発揮して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、伝わりやすい英語で表現する力

「文法能力」とは、言語の規則体系についての知識と、それらの知識を使いこなす能力を指し、伝えたい内容を正しく相手に伝えるのに必要な能力である。また、「談話能力」とは、文と文を適切に結びつけたり、伝え方の順序やどのように表現するかを考えたりして、まとまりのある文章を構成する能力を指し、伝えたい内容を効果的に伝えるのに必要な能力である。これらの能力を知識や技能として習得し、目的や場面、状況などに応じて、伝えたい内容を伝わりやすくするために思考を働かせることが、コミュニケーションを図る資質・能力を育むために必要であると考えられる。また、得られた情報を整理し、理解した多様な情報や表現を、選択や抽出、統合し、自分の思いを関連付けて表現することが必要となる。

なお、伝わりやすい英語で表現するためには、コミュニケーションを図るための基礎となるアイコンタクトや声量などの社会言語能力、及びコミュニケーションストラテジーを使用する方略能力を育むことも重要であるが、創造的思考を働かせづらいため検証の対象とはしない。

3 資質・能力を育むための手立て

近年の英語教育界で注目を集めている思考力を育む教育法にCLIL^{注3)}がある。CLILとは、言語教育と教科の内容とを統合した形で行う教育方法の総称である。教科内容を題材にしてさまざまな言語活動と指導を行い、外国語の5領域を向上させていくことを目指している。また、CLILの根本原理とされる「4つのC^{注4)}」がある。これら4つのCの要素をすべて考慮しながら、言語を習得させる機会を提供する。さらに、学習する際には、できるだけ私たちが現実に目にするオーセンティックな題材を活用することで学習への動機づけを高めることができる。また、文字だけではなく、音声、数字、図、絵、写真や映像といった情報を活用することも奨励している。そうすることで、和泉伸一(2016)は、「理解や暗記に頼るだけの学習ではなく、応用、分析、評価、創造といったさまざまなレベルの思考力を刺激する」ことができると述べている。この理論を参考にして、学習する場面において、適する題材でコミュニケーション活動を必要に応じて取り組ませていく。また、コミュニケーションを図る資質・能力を育むために、情報や思い、伝えたい内容について思考を働かせる場面を設定する。

(1) 拡散的思考と収束的思考を働かせる場面の設定

単元全体を通して、伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る生徒を育むために、拡散的思考と収束的思考を働かせる場面を設定する。拡散的思考を働かせる場面として、単元のはじめに、Speaking Checker (以下SC) (後述3(4)参照)を用いて、本単元の場面設定(課題)を提示し、学習の見通しをもたせる。そして、与えられたトピックや場面において、相手に伝わりやすくするために、得られた情報や自分の思いについて考え、グループや学級で確認させる。

その際、Advanced Activityとして、得られた情報を活用したり、伝えたい内容のよさを確認したりする発展的活動を設定する。メタ認知が促進されるよう、やり取りの活動の後や、原稿や自分の考えをまとめたものの作成や修正、清書をしていく際に、なぜそのように発話したかや、原稿や自分の考えを修正した理由を記述させる（「拡散的思考中のモニタリング」（以下「拡M」）。収束的思考を働かせる場面としては、単元の終わりにAdvanced Activityの一環として、発表活動を行う。発表活動の内容は、即興的にやり取りの発表を行ったり、原稿を作成した上で活動を行ったり、自分の考えをまとめるライティングを行ったりする。発表活動の前には、それまで学んできたことを振り返り、発表活動にどのようにいかすかを考えさせる活動を行い、メタ認知を促進させる（「収束的思考中のモニタリング」（以下「収M」）。また、発表活動の最後に、この活動を通してできるようになったことや今後の活動にいかしていけること、拡散的思考と収束的思考の有効性を認識しているかの自己評価を記述させる（「拡散・収束的思考による課題解決後のリフレクション・モニタリング」（以下「拡・収RM」）。このように拡散的思考と収束的思考を働かせる場面を単元に位置づけることで、文法能力や談話能力を、深い理解を伴った知識として習得することができる。と考える。

(2) 単元の基本的な学習の流れと教師の指導

単元の基本的な学習の流れとして、Training Section（以下TS）、Advanced Section（以下AS）、Reflecting Section（以下RS）の三つの場を設定する。各Sectionにおける活動は次のとおりである。この三つの場の中に拡散的思考と収束的思考を働かせる場面を設定する。

<p>○三つの場の流れ</p> <p>TS → AS → RS → AS → RS</p> <p>（拡散的思考） （収束的思考）</p>
<p>Training Section (TS)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもたせるためにSCで場面設定（課題）を提示する。 ・教科書を活用し、コミュニケーションの基礎・基本を身に付けるためのトレーニングに取り組みさせる。なお、トレーニングでの活動は以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> ① Warm-up活動 ② 新出文法事項や新出語句の学習 ③ 教科書本文の内容把握 ④ 教科書本文の音読練習 ⑤ 新出文法事項を用いさせるコミュニケーション活動 ・既習事項の復習や、Interview, Speechなどのコミュニケーション活動に取り組みさせる。 ・ASで活用できるような表現の練習や準備に取り組みさせる。
<p>Advanced Section (AS)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを図る資質・能力を育むために、Skit, Role Playing, Show and Tell, Speech, Drama, Debate, プレゼンテーション, やり取りなど、内容の伝達を重視した様々なタイプのAdvanced Activityを設定し取り組みさせる。 ・Advanced Activityの一環として、学習した内容を活用できる発展的活動に取り組みさせ、さらに、提示された課題を解決することを目指して発表活動を行わせる。 ・それまで学んだことをAdvanced Activityにどのようにいかすかを考えさせる。
<p>Reflecting Section (RS)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられたトピックや場面において、相手に伝わりやすくするために、情報や思いを整理する活動を通して伝えたい内容について考え、グループや学級で確認させる。 ・発展的活動で生徒のデモンストレーションや教師のモデルを視聴し、相手に伝わりやすくす

るにはどうしたらよいかを考えさせる。

- ・発展的活動で生徒のデモンストレーションや教師のモデルの伝わりやすさが、どのような表現や表現の仕方によるものなのかを学級全体で確認させる。
- ・発展的活動でやり取りの活動の後や発表原稿の作成及び修正をしていく際に、なぜそのように発話したかや原稿や自分の考えを修正した理由を記述させる（「拡M」）。
- ・発展的活動での自己の様子を振り返り、自分の発話を書き起こしたり、修正して清書させたりする。また、課題解決に向けて、学習した内容や表現をまとめたり、自分のコミュニケーション能力を向上させる方法を考えて記述させたりする（「収M」）。
- ・SCを用いて前単元の評価と現単元の評価を比較させることで、コミュニケーション能力の高まりを実感させる。
- ・CAN-DOリストを使用し、英語を用いて何ができるようになったのか振り返らせたり、次の学習到達目標は何であるのかを見通させたりする。また、SCを用いて次の学習の目標を設定させる（「拡・収RM」）。（最後のRS）

(3) 学習を見通し、振り返るCAN-DOリスト【資料1】

本研究では、英語を用いて何ができるようになるかという観点から学習を見通し、振り返るためにCAN-DOリストを使用する。このCAN-DOリストは、5領域「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の学習到達目標を示したものである。各学年を前半と後半に分けた6段階と3年生後半の達成目標の先を見通すことができるように発展的な1段階を取り入れた7段階で構成する。CAN-DOリストは生徒と教師が学習到達目標を共通理解するために年度初めに提示する。また、単元の始め及び単元終了時にCAN-DOリストを確認させ、生徒たちに現在の学習達成状況を振り返らせたり、次の目標を確認させたりする。このCAN-DOリストを基に5領域の到達目標を達成させることが、コミュニケーションを図る資質・能力の向上につながると思われる。

(4) CAN-DOリストと単元の学習を関連付けるSpeaking Checker【資料2】

単元の学習の見通しをもたせたり、CAN-DOリストの各段階と単元にどのような関わりがあるのかを生徒たちに知らせたりするためにSCを作成する。SCには、単元の学習到達目標とCAN-DOリストとの関わりや、発表活動に取り組む際の場面設定と気を付けさせたいことを明示する。そして、発展的活動の後に、生徒のデモンストレーションや教師が示すモデルのよさを踏まえてその活動を行うにあたって工夫したことや今後にかかせそうなことを記入させる。また、発表活動の後にも、今後の活動にかかしていけることを記入させる。

4 資質・能力が育まれたかの評価について

育みたい資質や能力が生徒たちにどの程度身に付いたかを評価することで、手立ての有効性を検証する。そのために、ループリックを基に、文法能力および談話能力が育まれたかをやり取りや発表から見取る。

5 研究の経緯

本研究1年次では、理論の構築と目指す生徒像を達成するために、育みたい資質・能力を育むための4つの手立てを用いることが、得られた情報や自分の思いを整理して、伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る生徒を育むことに有効であることを検証することをねらいとした。そして、英語を用いて何ができるようになるかという観点から学習を見通し、振り返るためにCAN-DOリストやSCを使用し、4つの手立ての中に、創造的思考力を育むための構成要素である、拡散的思考と収

束的思考を働かせる場面を英語科の授業に位置づけることを模索した。具体的な位置づけとして、学習の流れの中の1度目のASに拡散的思考、RSに収束的思考を働かせる場面を授業の中に設定し、その後2度目のASにやり取りの発表を行った。

ASの中に、複数回やり取りを行う場面を設定し、やり取りをする際にどのような内容をどのような表現で伝えるかを生徒たちに考えさせた(拡散的思考)。そして、ASとして再びやり取りをする際に、生徒が考えた伝えたい内容や表現の中から、最も自分が伝えたいと思った内容とそれを伝えるのに効果的な表現を選択してやり取りを行った(収束的思考)。教師は生徒たちにデモンストレーションのよさやペア活動で工夫したことを発言させ、全体で共有したことで、収束的思考が適切に働くよう支援した。そうしたことで、生徒たちはどのような表現を用いれば会話を展開することができるかを知り、即興的に相手に自分の考えを伝え合うことができた。さらに、内容面についても深く考え、相手の意見を鵜呑みにすることなく、より多くの情報や相手の考えを得ようとする姿が見られた。以上のことから、4つの手立てを用いたことが、伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る生徒を育むことに有効であることが検証できた。

しかし、1回の授業の中にASとRSの2つの場を設定し、拡散的思考と収束的思考を何度も繰り返させたことで、生徒たちに、相手に伝わりやすくなるように、得られた情報や自分の思い、伝えたい内容について十分に考えさせることができなかつた。それにより、やり取りを行う際に生徒たちは積極的に発話をするものの、言いたいことや聞きたいことはあるが伝え方が分からなかったり、話すべき内容をまとめきれなかつたりする生徒が多く見られたという課題が残った。

そこで2年次は、単元全体が創造的思考力を育む場であると捉え、拡散的思考を働かせる場面が、基本的な文法に関する知識や、課題解決に有効な表現や談話構成についての知識を得るだけの場面ではなく、得られた知識をどのように活用するか検討し、内容についての考えを深めるための場面となるように工夫した。収束的思考を働かせる場面である、単元最後の発表活動に向けて、生徒がやり取りを行う機会を十分に確保し、話し合う内容が次第に深まるよう段階的なテーマ設定をした。また、教師が生徒の考えに対して、意図的に疑問を呈する問いかけをし、生徒が自分の考えを見つめ直すことができるよう支援した。何度も活動を行う中で、生徒は課題解決ができるよう、有効な知識を得て、自らの考えを深めることができた。以上のことから、単元全体を通して拡散的思考と収束的思考を働かせ、課題解決をさせたことは、目指す生徒像に近づくために有効であった。

しかし、課題解決後に記述させたSCには、得られた知識を設定された場面以外でどのようにいかしていくかについてあまり触れられていなかった。また、拡散的思考と収束的思考の有効性について認識している生徒も少なかった。今後、得られた知識が関連付けられ、深い理解を伴った知識を習得したり、拡散的思考と収束的思考の有効性について認識したりすることができるよう、「拡散・収束的思考による課題解決後のリフレクション・モニタリング」の在り方について、さらに検証をしていく必要があると考えた。そこで、3年次のねらいを以下のようにした。

6 3年次のねらい

これまでの成果と課題を踏まえ、3年次では、本校英語科の目標である伝わりやすい英語でコミュニケーションを図る生徒の姿を目指し、「リフレクション・モニタリング」を行う場面で、より効果的にメタ認知を促すことができる方法を具体化していく。課題解決後の場(最後のRS)において、どのようにすれば、生徒が自分の発話内容の変化や学習方法のよさを実感し、自分の成長を感じることができるようになるか試行する。そして、その結果、伝わりやすい英語でコミュニケー

ションを図る生徒を育むことに有効であるかを検証する。

注1) Common European Framework of Reference for Languages: Learning teaching assessment 外国語学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠 縦軸は言語能力のレベルの記述があり、横軸は、聞くこと、読むこと、やり取り、表現、書くことの5技能に分類されている。

注2) 言語を正確に理解し、実際の状況の中で適切に使用する能力。Canale (1983) は、伝達能力を、文法能力、談話能力、社会言語能力、方略能力の四つに下位分類した。

注3) Content and Language Integrated Learning 内容言語統合型学習 社会・理科などの教科や時事問題・異文化理解といったトピックの内容学習と言語学習を有機的に統合しその両方を学ぶ学習法。

注4) 「4つのC」とは、Content (科目やトピック)、Communication (語彙・文法発音などの言語知識や読む、書く、聞く、話すといった言語スキル)、Cognition (さまざまなレベルの思考力)、Communityまたは Culture (共同学習、異文化理解)である。

引用文献

1) 和泉伸一『フォーカス・オン・フォームとCLILの英語授業 生徒の主体性を伸ばす授業の提案』アルク、2016年、75ページ

参考文献

文部科学省『中学校指導要領解説外国語編』開隆堂、2018年

同『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」』の形での学習到達目標設定のための手引き』、2013年

伊藤治己『アウトプット重視の英語授業』教育出版、2008年

金子朝子・松浦伸和『新学習指導要領の展開』明治図書、2017年

菅正隆『中学校教育課程実践講座外国語』ぎょうせい、2017年

吉島茂他編訳『外国語教育Ⅱ 外国語学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日新聞社、2004年

投野由紀夫『英語到達度指標CEFR-Jガイドブック』大修館書店、2013年

高島英幸『英語のタスク活動とタスク』大修館書店、2005年

田中武夫・田中知聡『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』大修館書店、2003年

鈴木渉『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店、2017年

上山晋平『英語教師のためのアクティブ・ラーニングガイドブック』明治図書、2016年

Canale, M. 1983. From communicative competence to communicative language pedagogy. In Language and communication, edited by J. Richards & R. Schmidt. Longman. C. K. Ogden, 1935. BASIC STEP BY STEP, Hokuseido Press

Swain, M. 1998. Focus on form through conscious reflection. In C. Doughty & J. Williams (Eds.). New York: CAMBRIDGE University Press

Do Coyle, Philip Hood, David Marsh 2010『CLIL Content and Language Integrated Learning』CAMBRIDGE University Press

令和2年度 CAN-DOリスト

卒業時における学習到達目標

- ・英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
- ・日常的话题や社会的な話題について、伝わりやすい英語で即興で伝え合ったり話したりすることができる。
- ・日常的话题や社会的な話題について、聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向や事実関係などを理解することができる。

- 説明と紹介に関すること
- 質問とその応答に関すること
- ☆ 場面に適した表現の選択に関すること
- △ 音読に関すること

期間	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと	聞くこと	読むこと
今後	<ul style="list-style-type: none"> □ 議論、討論の中で考えや気持ち、根拠などを尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 日常や社会生活の様々な状況や場面に応じて、適切な表現を選択してやり取りすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々なテーマについて、自分の意見を相手に分かりやすくまとめて伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々なテーマについての自分の考えを明確にもち、それを英文で書くことができる。 □ 様々な状況に応じて尋ねたり、答えたりする文を書くことができる。 ☆ 様々な状況や場面に応じたやりとりを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表、議論、交渉などから必要な情報を聞き取ることができる。 □ 発表、議論、討論の中で考えや気持ち、根拠などの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 学校生活、日常生活での様々な場面で必要な情報を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新聞、雑誌などを読んで、話の内容を読み取ることができる。 ○ 立場を主張している様々な文章を読み、その内容を詳しく読み取ることができる。 △ 様々な文章を読み、その内容が相手に伝わるような表現方法で音読することができる。
3年後期	<ul style="list-style-type: none"> □ 事実関係や根拠などの詳しい情報を尋ねて引き出したり、答えたりすることができる。 ☆ 場面や相手の立場を理解して、状況に応じた日常のやり取りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近なテーマについて、自分の意見を、立場を明確にして主張することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近なテーマについての自分の立場とその理由を明確に書くことができる。 □ 事実関係や根拠などの詳しい情報を尋ねたり、答えたりする文を書くことができる。 ☆ 場面や相手の立場を理解して、状況に応じた適切な表現を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 議論から賛成か反対かとそれを支える理由を聞き取ることができる。 □ 事実関係や根拠などの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 地図やグラフなどの資料と関連付けて、情報を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明文などを読んで、話の内容を読み取ることができる。 ○ 賛成か反対かの立場とその理由が書かれた意見文を読み、詳しく読み取ることができる。 △ まとまりのある英文を読み、場面にあった声量及び内容にあった表現方法で音読することができる。
3年前期	<ul style="list-style-type: none"> □ 期間やこれまでの経験について尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 人にものをすすめるやり取りや、人をさそったり、提案したり、約束をしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な事象について、詳しい情報を加えて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な事象について、詳しい情報を加えて書くことができる。 □ 期間やこれまでの経験について尋ねたり、答えたりする文を書くことができる。 ☆ 自己紹介や質問を交えて手紙を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 詳しい説明のある紹介文、説明文から要点を聞き取ることができる。 □ 期間や、これまでの経験などの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 資料などについて概要を聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りのことを紹介している英文を詳しく読み取ることができる。 ○ ある事柄に関する感想文を読んで、その内容を詳しく読み取ることができる。 △ まとまりのある英文を読み、その文章が一番伝えたい部分を強調して音読することができる。
2年後期	<ul style="list-style-type: none"> □ 大きさや広さなど、事物の状態を比較して尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 買い物先で自分のほしいものを買求めるやり取りや道案内ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを理由を付け加えて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを理由を付け加えて書くことができる。 □ 大きさや広さなど、事物の状態を比較して尋ねたり、答えたりする文を書くことができる。 ☆ 自分の好きなことやものについて自分の考えや理由を付け加えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見から賛成か反対かとそれを支える理由を聞き取ることができる。 □ 大きさや広さなど、事物の状態を比較して尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 乗り物での行き方を尋ねる場面や買い物の場面でのやりとりを聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 説明文などを読んで、その資料や話の概要を読み取ることができる。 ○ 賛成か反対かの立場とその理由が書かれた英文を読み取ることができる。 △ 立場を理解し、気持ちを込めて音読することができる。
2年前期	<ul style="list-style-type: none"> □ 過去や未来の出来事、きまりなどについて説明したり、相手に尋ねたりすることができる。 ☆ 丁寧に許可を求めたり、依頼したりするやり取りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動をする目的や、自分のしたいことについて情報を加えながら説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動をする目的や、自分のしたいことについて情報を加えながら説明する文を書くことができる。 □ 過去や未来の出来事、きまりなどについて説明したり、相手に尋ねたりする文を書くことができる。 ☆ 自分の将来の夢について理由をつけて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何かをする目的や、自分のしたいことについての説明についての詳しい情報を聞き取ることができる。 □ 過去や未来の出来事、きまりなどについての説明や、尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 友だちの将来の夢について理由とともに聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちからのメールや日記を読み取ることができる。 ○ 物語などを読んで、話の概要を読み取ることができる。 △ 場面に合わせて、正しい声量で音読することができる。
1年後期	<ul style="list-style-type: none"> □ 相手のできることや、相手の過去の出来事について尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 身近な人に電話したり、簡単な道案内をしたりしてやり取りができる。 ☆ 自分ができることや思い出の行事や出来事のやり取りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第三者についての簡単な情報を紹介することができる。 ○ 思い出の行事や出来事を紹介することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時制や伝わり方を意識しながら自分や他者について感想を交えながら書くことができる。 ○ 疑問詞や代名詞を用いて、具体的な質問をしたり、わかりやすく応答したりする文を書くことができる。 □ 自分の一日の生活や過去の出来事について書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第三者についての紹介や思い出紹介、理想の生活についての説明を聞き取ることができる。 □ 今何をしているかや、ものがどこにあるかなどの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 道順を尋ねる場面や病院で体調を伝える場面でのやりとりを聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語などを読んで、話の展開を読み取ることができる。 ○ 今何をしているかや、ものがどこにあるかなどの尋ねられていることを読み取ることができる。 △ 強勢やイントネーション、区切りなどに注意して、簡単な英文を正しく音読することができる。
1年前期	<ul style="list-style-type: none"> □ 相手と挨拶をして体調や相手のことを尋ねたり、答えたりすることができる。 ☆ 日常の挨拶や簡単な自己紹介のやり取りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や身の回りのことについて感想を交えて簡単に紹介することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や他者について感想を交えて書くことができる。 □ 自分の気持ちや考えを踏まえながら相手のことを尋ねたり、質問に対して答えたりする文を書くことができる。 ☆ 身の回りの物や名前について正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちや先生の自己紹介を聞き取ることができる。 □ 自分や他者に関することなどの尋ねられていることを聞き取ることができる。 ☆ 日常の挨拶や授業中の英語の指示などのやりとりを聞き取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りのことを紹介している簡単な英文を読み取ることができる。 ○ 簡単な英文を読み取ることができる。 △ アルファベット、数字、曜日などの身近な英単語を正しい発音で読むことができる。

Unit 3 “Career Day” Speaking Checker

Class 2 - No. Name: _____

<場面設定 (課題)>

自分の将来の夢について、どんなことがしたいのか、その理由や夢を叶えるために何ができるかを発表しましょう。

○単元の目標

- ・自分の将来の夢について、自分がしたいことや理由、夢を叶えるために何ができるか情報を加えながら説明することができる。
- ・友達の将来の夢について理由とともに聞き取ることができる。

[CAN-DO リスト 話すこと (発表) : 2年前半]

[CAN-DO リスト 聞くこと (発表) : 2年前半]

○こんなことを大切にしよう (スピーチ1分30秒)

話すこと	・相手を意識して何を話すかを明確にする。	相手を意識して、聞き手の理解を助けるために、最初に何を話すのか伝えましょう。
	・テーマに沿った段落構成で話している。	自分の将来の夢について、自分がしたいことや理由、夢を叶えるために何ができるかを伝えるため、段落構成を工夫しましょう
	・与えられた時間を有効的に活用して話している。	限られた時間 (1分30秒) の中で、十分に情報を伝えられるようにまとめましょう。
	・効果的な表情と声量、スピードや間で話す。	自分の将来の夢を印象的に伝えるため、表情や声量、話すスピードや間を意識して話しましょう。
聞くこと	・クラスメイトの発表を聞き取る。	夢が何かということだけでなく、理由や夢を叶えるためにできることなど、詳細まで聞き取りましょう。

① 今回の目標 (前單元までの反省をいかして) ☆SC配布時に記入

②-1 グループ内発表について (「将来の夢」を発表するために工夫したこと) 拡M 仮原稿作成時、グループ内発表前に記入

②-2 モデルスピーチについて ☆モデル視聴時に記入

<内容メモ>			
<input type="checkbox"/> 文法	<input type="checkbox"/> 談話	<input type="checkbox"/> 声・アイコンタクト	<input type="checkbox"/> スピード・間
NEXT: 原稿の修正, 原稿 (清書) の作成			

③ 自分の原稿を修正した理由、原稿 (清書) を作成する際に工夫したこと 収M ☆原稿 (清書) 作成時、発表前に記入

NEXT: 発表

④ この活動を通してできるようになったこと、次の活動にいかしていきたいこと。 拡・収RM ☆発表&振り返り後に記入

Unit 3 “Career Day” 評価指標

Class: 2-() No.() Name()

<ルーブリックの説明>

文法, 発音 (文法) ・文法 ・発音	5	文法, 発音において, 共に完全に正確である。
	4	文法, 発音において, ほとんど誤りがない。
	3	文法または発音において, どちらかはほとんど誤りがなくても, どちらかは不十分である。またはどちらとも半分程度できている。
	2	文法, 発音において不十分である。
	1	文法, 発音が日本語と変わらない。
構成と話す内容 (談話) ・文法や語彙を適切に結びつける	5	将来の夢について, 制限時間を有効活用し, 将来したいこと, その理由, 夢を叶えるために今できることを具体的に伝えている。
	4	将来の夢について, 将来したいこと, その理由, 今できることを具体的に伝えているが, 制限時間を超えていたり, 時間が余りすぎたりしている。
	3	将来の夢について, 将来したいこと, その理由, 今できることを具体的に伝えられていない。また, 制限時間を大幅に超えていたり, 時間が余りすぎたりしている。
	2	将来の夢について, ほとんど伝えることができない。
	1	将来の夢について全く伝えることができない。
発表の仕方 (社会言語能力) ・声量 ・アイコンタクト ・【言語運用能力】	5	聞き手にはっきりと聞こえる声で発表することが, 完全にできている。聞き手と目を合わせられる。
	4	聞き手にはっきりと聞こえる声で発表することが, ほとんどできている。聞き手と目を合わせられる。
	3	聞き手の方を見てはいるが, 時折聞こえにくい声で発表している。または, 聞き手にはっきりと聞こえる声で発表できるが, 時折聞き手をしっかり見ることができない。または, どちらも半分程度できている。
	2	聞き手を見ることや, 声の大きさが不十分である。
	1	聞き手をほとんど見ることができないし, 聞き手が聞き取ることができない。
発表の継続性 (方略) ・話すスピード ・間の使い方	5	発表する際, 話すスピードが適切で, 必要な時に間を取りながら相手が聞き取りやすく話すことができる。
	4	発表する際, 話すスピードが適切である。しかし, 必要な時に間を取ることができない。
	3	発表する際, 話が時折とぎれてしまい, 不必要な間が時々ある。または, 早すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい。
	2	発表する際, 話がとぎれることが多い。
	1	発表する際, 長い時間黙ってしまったり, 固まったりしてしまい, スピーチが途中で終わってしまう。

※ 社会言語能力とは, 本来社会的文脈・文化的ルールに従って, 適切に言語を運用する力。

○自己評価(5段階で○をつける)	○先生からの評価
・文法の力 5 4 3 2 1 ・談話構成の力 5 4 3 2 1 ・声量やアイコンタクトなどの伝える力 5 4 3 2 1 ・適切な間で, 途切れなく流暢に話す力 5 4 3 2 1	・文法の力 5 4 3 2 1 ・談話構成の力 5 4 3 2 1 ・声量やアイコンタクトなどの伝える力 5 4 3 2 1 ・適切な間で, 途切れなく流暢に話す力 5 4 3 2 1

今回の場面設定に合った発表を行う上で, 次の項目について, 行うことができたかを振り返り, 自己評価をしましょう。また, その自己評価をした理由も書きましょう。

- 教科書や, プリントのアクティビティを通して学んだことをいかして発表を行うことができた。

よくできた ← 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 → できなかった

理由

- 先生のモデルスピーチを見て学んだことや, グループ発表でもらった意見, 友達のスピーチを見て学んだことをいかして発表を行うことができた。

よくできた ← 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 → できなかった

理由

- 原稿の修正を行ったり, 清書を行ったりする際, それまでに学んだことを意識して行うことができた。

よくできた ← 5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1 → できなかった

理由